

YS11の思い出 その1 人生初フライト

荒岡 衛

現在では飛行機による旅行は非常にポピュラーなものになっている。私の子供たちも0歳の時から飛行機に乗っている。しかし私が学生だった1970年頃はそう簡単に乗れるものではなかった。航空工学科の授業でT教授が「お前たち飛行機に乗ったことがあるか？」と問われたのは1971年だった。そこで手を挙げたのはグライダー部に所属していた数名だけ、彼らがグライダーで飛んでいたのみだった。先生は「飛行機を設計しようという者が飛行機に乗ったことがないのはだめだ」といわれ、三鷹の航技研を通して調布飛行場で体験飛行をする機会を作ってくれた。しかし1学年50名の学生全員に体験させることはできない。乗れるのは5名ぐらいだったか、当然全員が希望したのでくじ引きになり、私は残念ながら外れた。

そのことを大阪の祖父の所に行った際に話したら、それなら一度体験させてやろうと言われて乗れることになった。私の初フライトは1972年4月25日伊丹発7:25高松行きNH571便だった。何分にも初めてなので予約や航空券の購入などは祖父の会社の人にしてもらった。また搭乗券は記念に持ち帰ったものの詳細な搭乗記録はつけていない。機種はYS11、機番はJA8736、当時座席は搭乗順に好きなところに座れた。もちろん窓側席に陣取り、出発を待った。プロペラが始動、機体が動き出す。滑走路端で停止、プロペラの回転数を上げ、ブレーキを外して一気に加速、離陸する。この時かなりのGがかかり、それがまたなんとも言えない快感だった。ほんの30分ぐらいの短い飛行だったが翼の動きを見たり、上空から地上を眺めたりするのが楽しかった。

せっかく高松まで行くのだから見物もしてこいという祖父の言葉に従って、屋島、琴平神社、栗林公園を回ってその日の最終便、高松発20:00NH593便で大阪に戻った。帰りも窓側席で夜景を堪能した。これでさらに飛行機が好きになったのは言うまでもない。